

シラバス

指定番号 255

商号又は名称: 株式会社ミライブプロジェクト

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について具体的イメージを持って実感できるようになる。 ・学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の開始に当たり、多岐にわたる介護系サービスについての印象をグループ討議で語り合う。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供に至るまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・講義及び演習：介護職が活躍する現場の様子を映像等を通して理解し、グループで感想を述べる。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	2	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーション ・高齢者の為の国連5原則 ・バリアフリーとユニバーサルデザイン ・高齢者に対する虐待の種類 ・高齢者の財産を守る制度 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の尊厳の保持 ・QOLの考え方、QOLが求められた社会的背景 ・ノーマライゼーションの理念と歴史、ノーマライゼーションの難しさ、ノーマライゼーションと介護、関連する概念 ・高齢者虐待防止の歩み、高齢者虐待の種類と特徴、サイン ・高齢者虐待の防止 ・高齢者の人権を守る制度、判断能力の低下した高齢者の権利を守る制度、その他の制度 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待についての事例を挙げてグループワークを行う。
② 自立に向けた介護	4	1.5	2.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 ・利用者にとっての自己選択・決定 ・利用者の自立に向けた介護 ・こころの自立を支える介護職の在り方 ・介護予防 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援の考え方 <p>介護サービスにおける自立（自律）の理念、残存能力の活用、自己選択と自己決定、個別的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の考え方 <p>介護予防の視点、介護予防特定高齢者施策</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援と介護予防の重要性をグループワークで考える。
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権について ・人権への取り組み ・多様な性について ・日本の現状/日本がLGBTQについて取り組む理由について ・課題や取り組み、まちづくりに向けての課題や出来ること <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズでLGBTQを知る ・当事者の体験談を聞く
(合計時間数)	9	5.5	3.5	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく。 ・職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己実現の支援 ・介護実践の原則 ・社会福祉士及び介護福祉士法 ・チームケア <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴と理解 <p>少子高齢社会と介護システム、地域包括ケアシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の専門性 <p>介護実践の原則（対人援助の原則、自立支援、潜在能力や意欲を引き出す介護、根拠ある介護）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関する職種 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設入居希望の高齢者に地域在宅ケアでの生活をプレゼンテーションする。
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本介護福祉士会倫理要項 ・利用者のプライバシーに関する留意点 ・介護福祉士の職業倫理 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理 <p>誠実義務、信用失墜行為、プライバシーの尊厳、介護福祉士会倫理要綱</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待についての事例を挙げて、倫理の視点からグループワークを行う。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器予知訓練 ・介護における安全の確保 ・感染対策 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関する安全の確保 <p>リスクマネジメントと危機管理、リスクマネジメント関連用語、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故予防、安全対策 <p>不安全状態と不安全行動、安全教育、危険予知訓練（KYT）、介護事故が起こってしまったときの対応・感染対策</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <p>事故を未然に防ぐための方法や事故はなぜ起こるのか事故の要因を考え、グループディスカッションを行う。</p>
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の安全 ・ストレス ・腰痛予防 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理 <p>感染症予防の基本事項、腰痛予防、介護職員のこころの健康管理</p> <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場で想定されるリスクを理解し、その対処法等グループ討議を行う。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	3		〈講義内容〉 ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 制度創設の目的、介護保険制度の動向、地域包括ケアシステム ・介護保険制度のしくみ 保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、 要介護認定の手順、財政負担、指定介護サービス業者の指定 <演習実施方法> ・制度の全体像を把握し、実際に利用される資料を基にグルー プ討議を行う。
② 医療との連携とリハビリ テーション	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・医行為 ・リハビリテーション 〈講義内容〉 ・介護における医療と福祉の連携 居宅サービス・施設サービスにおける医療と福祉の連携 ・介護職と医行為 医行為とは、介護職が行える医行為 ・リハビリテーション リハビリテーションの理念、リハビリテーションの過程 <演習実施方法> ・医行為を行ってはいけない理由を考え、医行為と医行為でない ものについて理解を深める。
③ 障がい者総合支援制度お よびその他制度	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 ・障がい者福祉の理念 ・障がい者の定義と手帳制度 ・障がい福祉サービスの種類 ・生活保護の基本原則と基本原則 ・日常生活自立支援事業 ・虐待防止法 ・年金制度 〈講義内容〉 ・障がい者福祉制度の理念 障がいの理念、ICF（国際生活機能分類） ・障がい者総合支援制度のしくみの基礎的理解 介護給付、訓練等給付の申請から支給決定まで ・個人の権利を守るその他の制度 生活保護制度、成年後見人制度、日常生活自立支援事業 <演習実施方法> 障がい者の定義について理解し、ディスカッションを行う。
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター ・VR
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることを理解する。 ・上記の違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識する。 ・初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	2	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーション ・介護におけるコミュニケーションの基本 ・閉じられた質問と開かれた質問 ・聴覚障害者とのコミュニケーション ・認知症のある人とのコミュニケーション <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション <p>言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなハンディキャップをもった利用者として想定し、受講生同士でコミュニケーションの演習をする。 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <p>講義、演習：利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの方法をグループ毎で行うロールプレイングを通じて討議する</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	2	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義と目的 ・介護に関する記録 ・事故報告 ・居宅サービスにおける担当者会議 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、ヒアリング報告書、5W1H ・報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点 ・会議、情報の共有化、役割の認識の場（利用者と頻回に接する介護者に求められる観察眼）、ケアカンファレンスの重要性 ・事例を参照しながら「介護個別援助計画書」を作成する。 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況報告や記録方法、スタッフ同士のコミュニケーションをグループ毎で行うロールプレイングを通じて討議する。
(合計時間数)	6	4	2	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢、老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づく。 ・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	0.5	2.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寿命と老化の特徴 ・知的能力の老化と特徴 ・老化によるところとからだの変化と観察ポイント <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 防衛反応（反射）の変化、喪失体験 ・老化に伴う心身の変化と日常生活への影響 身体的機能と変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習及び通信講習：老化に伴う身体的・精神的变化について具体的事例を基にグループ討議を行う。
② 高齢者と健康	3	3		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 骨折、筋力低下と動き・姿勢の変化、関節痛 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 循環器障がい（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、循環器障がいの危険因子と対策、老年期うつ症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症）、誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気づく視点、高齢者は感染症にかかりやすい <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾患と日常生活上の留意点を具体的事例を基にグループ討議を行う。
(合計時間数)	6	3.5	2.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護において認知症を理解することの必要性に気づく。 ・認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.5	1	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状 ・認知症の人との関り・ <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念 <p>「生活者」としての理解—残された意欲や能力に着目していく、認知症の人の世界を理解していく—利用者その人が「生活の主人公」、利用者本人の「感情面」や「思い」をみていく</p> <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の具体的な事例について多角的に考察し、対応方法についてもグループでロールプレイングを実施し討議を行う。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症に似た症状 ・改定長谷川式簡易知能評価スケール ・アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症 ・ピック病について ・認知症の人の健康管理 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理、 認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理、治療、薬物療法、認知症に使用される薬 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念と認知症による障害を多角的に考察し、対応方法についてもグループでロールプレイングを実施し討議を行う。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の周辺症状 ・認知症ケアの基本 ・認知症の人とのコミュニケーション ・認知症の人のケアマネジメントセンター方式 ・認知症の人のケアにおける介護職員の姿勢 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状と行動・心理症状 (BPSD) <p>中核症状、周辺症状、BPSD の出現、主な BPSD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症利用者への対応 <p>認知症の人とのコミュニケーション、基本的なケア</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の具体的な事例について多角的に考察し、対応方法についてもグループでロールプレイングを実施し討議を行う。
④ 家族への支援	1.5	0.5	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者へのエンパワメント ・家族介護者へのレスパイトサービス <p>認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減 (レスパイとケア)</p> <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援
(合計時間数)	6	3.5	2.5	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター ・VR
------------	--

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解する。 ・障がい者の介護における基本的な考え方について理解している。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFとは ・身体障害者福祉法及び同法施行規則別表に定められた身体障がい者の定義 ・障がい者基本法 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの概念、障害者基本法、身体障害者福祉法、身体障害者と障害等級 ・国際生活機能分類 (ICF)、活動制限と参加制約、一人ひとりにあった支援 ・ノーマライゼーション、個人の尊重、生活の質 (QOL) の向上 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が障害を負った際どのように受け止め、どのような生活を送りたいのかグループワークを行い、障害のある方に対して関わる際の視点を理解する。
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1		<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの医学的側面の基礎的知識 <p>視覚障がい、聴覚・平行機能障がい、音声・言語・咀嚼機能障がい、肢体不自由、内部障がい、障がいの受容、精神障がい、高次脳機能障害、発達障がい</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害についてグループワークを行う。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい受容の考え方 ・当事者団体の活動を知っておくべき理由 ・障がい受容の段階説 <p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の心理の理解 <p>家族の心理、家族の支援</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習及び通信講習：障害者の家族関わり合い方について、心理的・肉体的な介護負担の側面から負担軽減策のグループ討議を行う。
(合計時間数)	3	2	1	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子人数×1/2 ・杖 人数×1/2 ・介護ベッド ・マットレス×3 ・歩行器 ・クッション ・パジャマ
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。○安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ア 基礎知識の学習				
① 介護の基本的な考え方	3	3		<p>〈講義内容〉 介護を行うときの心構えだけでなく、法律上の規定も含めて介護の目的、介護の倫理、介護業務の基礎を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護、我流介護の排除 ・介護に関わる法律上の規定や考え方 ・生活障害という視点 ・生活の質（QOL）を高める視点の大切さ <p>〈演習実施方法〉 ・介護に関する心構えを理解し、グループ討議を行う。</p>
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.5	3.5		<p>〈講義内容〉 ・介護実践に必要なこころのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材を使って理解させ、具体的な機能等を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記憶の働き・機能・感情と意欲の基礎知識 ・感情と加齢 ・自己概念と生きがい ・老年期の人間関係と幸福感 ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ・障害受容と社会受容 <p>〈演習実施方法〉 ・介護にまつわる心理的な側面を、当事者意識を持ちながらグループ討議を行う</p>
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的知識	3.5	3.5		<p>〈講義内容〉 介護実践に必要なからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・バイタルサイン ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <p>〈演習実施方法〉 ・バイタルサインの測定、ボディメカニクスの実技演習を行う。</p>
イ 生活支援技術の講義・演習				
④ 生活と家事	4	4		<p>〈講義内容〉 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援としての家事サービス ・高齢者に対する生活支援の意味 ・生活の再構築という視点 ・残能力を活用する考え方 ・主体性・能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観・家事援助の方法 <p>〈演習実施方法〉 ・家事援助における共有すべき知識についてグループ討議を行う。</p>
⑤ 快適な居住環境整備と介護	4	2	2	<p>〈通信学習課題の内容〉 ・居室環境の整備 ・住居の安全と事故防止に向けた環境整備</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・すべり止めマットの使用理由と使用上の留意点 ・入浴に係る福祉用具 ・認知症高齢者の行動特性や安全に配慮した生活環境 (講義内容) <p>快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適的な環境づくり ・家庭内に多い事故 ・住環境で心がけること ・住宅改修 <p>(演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具にまつわる実技演習を行う。
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	12		<p>(講義内容)</p> <p>整容に関する基礎知識、整容の支援技術を学ぶ。 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果</p> <p>(演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の衣服・生活機器(爪切り等)を使った演習 ・事例を使ったグループワーク <p>(演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱等、整容にまつわる実技演習を行う。
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9	6	3	<p>(通信学習課題の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まひの障害部位 ・ボディメカニクス ・体位の種類 ・移乗、移動時の補助具 ・車いすの基本構造 ・車いす、歩行介助 ・移動と社会参加 ・自立を支える移動介護 <p>(講義内容)</p> <p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力の活用・自立支援 ・重心・重力の働きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗) ・移動介助(車いす・歩行器・つえ等) ・褥瘡予防 <p>(演習実施方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド、車いす、杖、アイマスク等福祉用具を使った演習 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 ・講義、演習：体位変換・移乗介助・移動介助(車いす・杖等)、移動移乗に関わる実技演習を行う。
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		<p>(講義内容)</p> <p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感、満腹感、好み ・食事の環境整備(時間・場所等)

				<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の生活機器（食器等）を使った演習 ・食生活に関するグループワーク ・食事介助のロールプレイ ・事例を使ったグループワーク ・献立の立て方・食事介助・口腔ケア等食事に関連した実技演習を行う。
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <p>入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護、入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ・足浴・手浴・洗髪 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴に関する福祉用具等を使った演習・ロールプレイ ・身体の清潔に関する生活用具を使った演習・ロールプレイ ・事例を使ったワークを行う。
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	2	3	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の基礎知識 ・排泄の福祉用具 ・排尿障害 ・排尿障害と便秘の予防 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的負担 <p>〈講義内容〉</p> <p>排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護、排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体面（生理面）での意味 ・心理面での意味、社会的な意味 ・プライド・羞恥心、プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害 ・排泄障がい日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ） <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助・一部介助、排泄用具の活用方法に関わる実技演習を行う。
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	2	3	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝室の環境 ・褥瘡と予防 ・マヒや拘縮 ・就寝時の安楽な姿勢への介助 <p>〈講義内容〉</p> <p>睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護、睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、光、音） ・安楽な姿勢・褥瘡予防 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を使ったグループワーク・ロールプレイ等

				・ベッドメイキング(シーツ交換)の実技演習や睡眠に関する仕組みについてグループ討議を行う。
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	5	4	1	<p>〈通信学習課題の内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死へのプロセスと介護 ・在宅ターミナルケア ・死にゆくところの過程 ・看取りにおける介護職員の基本的態度 ・看取りにおける家族支援 <p>〈講義内容〉</p> <p>死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護、終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援を学ぶ。</p> <p>「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケア ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ・臨終が近づいたときの兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアに関するシミュレーション・ロールプレイ ・グリーフケアに関するシミュレーション・ロールプレイ ・事例を使ったグループワーク ・看取りについての考え方を具体的な事例を基に多角的な角度から考察し、グループ討議を行う。
ウ 生活支援技術演習				
⑬ 介護過程の基礎的理解	4	4		<p>〈講義内容〉</p> <p>利用者それぞれの生活を支える介護課程の基礎を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに関するワーク・ロールプレイ ・記録・報告に関するワーク ・具体的な事例を基に、実際の書類を使用した実践的な作成演習を各個人で実施、その後のグループ討議にて仕組みの理解促進を図る。
⑭ 総合生活支援技術演習	6	6		<p>〈講義内容〉</p> <p>生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>〈演習実施方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例を提示し、援助職の力は発揮出来ない要因や適切な支援技術をグループ討議し、その支援技術について演習を行う。
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子 ・杖 ・介護ベッド ・マットレス ・歩行器 ・クッション ・オムツ(パンツ型) ・オムツ ・ポータブルトイレ
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2		<講義内容> ・研修を通して学んだこと ・今後研修して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性 <演習実施方法> ・講義全体を通して学んだ事を振り返り、引き続き取り組むべき介護についての課題や個人としての関わり方の個別発表を行う。
② 就業への備えと研修修了後における事例	2	2		<講義内容> ・継続的に学ぶべきこと ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT, OJT)を紹介 <演習実施方法> 「介護観」という言葉をテーマごとにグループ討議し発表する。
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。